株式会社バルカー

証券コード：7995

株主の皆さまへ

2023年3月期（第123期）第2四半期

バルカーレポート

2022年4月1日 ▶▶ 2022年9月30日

Value & Quality

VALQUA

THE VALQUA WAY

基本理念

Value
&
Quality

（価値の創造と品質の向上）

4つの経営理念

- 社会の発展のために
- 正正堂堂と
- 世界中のステークホルダーへ
- 独創的技術で

行動指針10項

1　事業を通じた社会への貢献
2　顧客感動の提供
3　人格と個性の尊重
4　株主との信頼関係の構築
5　地域社会との共生
6　安全衛生は全てに優先
7　コンプライアンス遵守と誠実な行動
8　環境にやさしいモノづくり
9　資産の保全と有効活用
10　チャレンジ精神にあふれた「学習と成長」への強いこだわり

Value & Quality

価値の創造と品質の向上

ごあいさつ

株主の皆さまに2023年3月期（第123期）第2四半期バルカーレポートをお届けします。

当第2四半期までのわが国経済は、新型コロナウイルス感染症によって受けたダメージからの回復が期待されたものの、個人消費は伸び悩み、製造業においても海外におけるロックダウン、半導体及び部品の不足、原材料価格及び入手難易度の上昇等の影響を受けて一部の業種では生産が停滞しました。
また、海外においてもインフレが個人消費に悪影響を与え、企業業績の回復に向けた活動は鈍いものとなりました。

このように厳しい事業環境下バルカーは、当期から開始した2か年中期経営計画“New Frontier 2023”（NF2023）で掲げた「成長を守る」という視点に立ち、地政学的リスクの増大に対応したサプライチェーンの見直し、半導体など成長市場に向けた製品競争力・供給能力の強化、DX（デジタルトランスフォーメーション）を柱とする攻守両面の企業改革に取り組みました。

当第2四半期までは前年同期を上回り、そして過去最高の業績となりましたが、今後に向けては半導体や産業機械に関連する需要の減速があり得るなど、予断を許さない状況になっております。
それに対しバルカーは、NF2023で掲げた戦略を着実かつ迅速に推進しつつ、未来と未知へのチャレンジを続け、「成長を守る」企業としての品質と価値の向上を図ってまいります。

2022年12月

代表取締役会長CEO　瀧澤利一

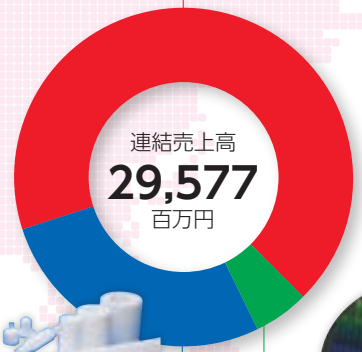
シール製品事業

売上高 19,984 百万円

売上高構成比 67.5 %

事業概況 シール製品事業は、半導体製造装置・デバイスなど先端産業市場の売上が高水準に推移したことに加え、国内のプラント定期修繕の動向を反映してプラント市場の販売も増加し、売上高は199億8千4百万円（前年同期比18.3%増）、セグメント利益は33億4千3百万円(同45.1%増)となりました。

今後の展開 バルカーグループの主力事業として、先端産業市場における業容を拡大するとともに、機器市場やプラント市場向けを含めてDXによる新たな顧客価値を提供し、収益力の向上を図ってまいります。



機能樹脂製品事業

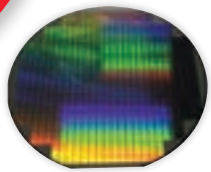
売上高 8,005 百万円

売上高構成比 27.1 %

事業概況 機能樹脂製品事業は、半導体製造装置・デバイスなどの先端産業市場の売上が拡大したことに加え、機器市場及びプラント市場の販売も堅調に推移し、売上高は80億5百万円（前年同期比23.1%増）、セグメント利益は6億2千1百万円（前年同期比28.5%増）となりました。

今後の展開 先端産業市場及びプラント市場向け戦略製品を軸にグローバルシェアの拡大とそれを支えるサプライチェーンの整備を進めるとともに、事業構造改革を推進し、収益力の向上を図ってまいります。

シリコンウエハーリサイクル事業他



売上高 1,587 百万円

売上高構成比 5.4 %

事業概況 シリコンウエハーリサイクル事業他は、主力事業は堅調に推移したものの、新規事業分野を含むH&S事業は開発費用等が先行的に発生し、売上高は15億8千7百万円（前年同期比18.4%増）、セグメント損失は2千1百万円（前年同期はセグメント損失9千1百万円）となりました。

今後の展開 シリコンウエハーリサイクル事業における品質の向上を通じた収益力の強化に加え、H（Hard）&S（Service）事業の業績化を速やかに図り、新たな価値創造を具現化してまいります。

Consolidated Financial Statements
連結財務諸表

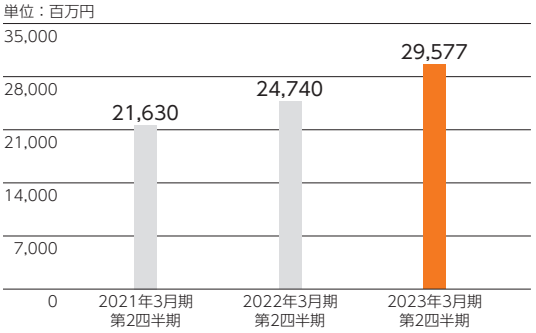
四半期連結損益計算書
単位：百万円

科目	前第2四半期累計期間 自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日	当第2四半期累計期間 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日
売上高	24,740	29,577
売上原価	14,939	17,414
売上総利益	9,801	12,162
販売費及び一般管理費	7,104	8,219
営業利益	2,696	3,943
経常利益	2,815	4,162
税金等調整前四半期純利益	2,772	4,629
四半期純利益	1,992	3,212
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,916	3,173

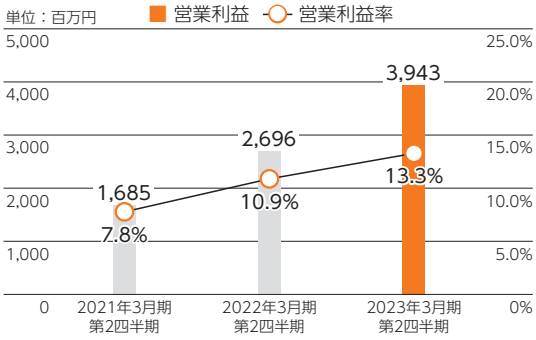
四半期連結貸借対照表
単位：百万円

科目	前期末 2022年3月31日	当第2四半期末 2022年9月30日
資産の部		
流動資産	34,935	39,419
固定資産	25,264	27,020
資産合計	60,200	66,439
負債の部		
流動負債	13,336	16,256
固定負債	5,883	5,940
負債合計	19,220	22,196
純資産の部		
株主資本	37,545	39,485
その他の包括利益累計額	2,183	3,488
非支配株主持分	1,250	1,269
純資産合計	40,979	44,243
負債純資産合計	60,200	66,439

売上高



営業利益 ／ 営業利益率



配 当

	中 間	期 末	年間配当
2021年3月期	45.0 円	50.0 円	95.0 円
2022年3月期	50.0 円	75.0 円	125.0 円
2023年3月期	60.0 円	60.0 円 (予想)	120.0 円 (予想)

VALQUA Topics
バルカートピックス

経営の体質強化とスピードアップに向けたDXの取り組み

バルカーグループでは、基幹システムの刷新による基幹業務の標準化、及びDX推進の礎となるグループ統一のデータ基盤構築を強力に推進しています。現在は大きく3つの施策に取り組んでいます。

❶【業務の迅速化】
最新基幹システムのグローバル拠点への導入、標準化

基幹システムの刷新は、現在、日本に続き、中国、台湾、シンガポール、米国と対象18拠点中13拠点まで完了しています。

これまでは、グループ内で異なるシステムが利用されている拠点もあり、売上データなどの取りまとめから集計までの時間を要していました。システムを統合したことでグループ間取引での受発注が自動化されるなど、データ入力にかかわる人的・時間的コストや連携の手間などを大幅に削減し、合理化を実現しました。

コロナ禍での対人コミュニケーションに制限があるなかでのプロジェクトでしたが、適材適所のDX人材配置とWeb会議を有効利用したことにより、スムーズなシステム刷新を実現しています。

また、基幹システム刷新後にもさらなる現地調査を行い、現場状況を分析・改善しています。一例として、計画発注の根拠となる需要分析・予測作業は現地の熟練したスタッフが人海戦術のような形で対応していましたが、各拠点の業務をサポートするサブシステムを導入し自動化しました。

現在は、連結決算業務の効率化に向けた開発に取り組んでいます。

監査の厳格化が進むなか、スピーディーかつ合理的な対応を実現してまいります。

❷【意思決定の迅速化と内部統制の強化】
申請／承認のワークフロー対応

利便性と安全性を両立させたワークフローシステムを構築し、国内外全ての拠点で利用しています。申請／承認のコミュニケーションがWeb上で完結でき、モバイル端末でも承認が行えるため、承認処理スピードが格段に向上しました。

こうしたシステムでの肝は、「決裁ルートが常に正しく保たれている」こと、つまりは組織情報が都度メンテナンスされることが必要ですが、ワークフローシステムと刷新した基幹システム間で情報が一元化されたことで、最新の人事情報とリアルタイムにつながり、申請ルートを見える化し、内部統制が強化されました。

今後は、申請書間の自動化を推進してさらなる利便性の向上を図ります。例えば雇用時に発生する各種申請書を一括で自動起票や、申請者がルーチンワークで処理している申請書の自動化も目指します。

3 【経営判断のスピードアップ】
各種デジタルデータの統一と利活用

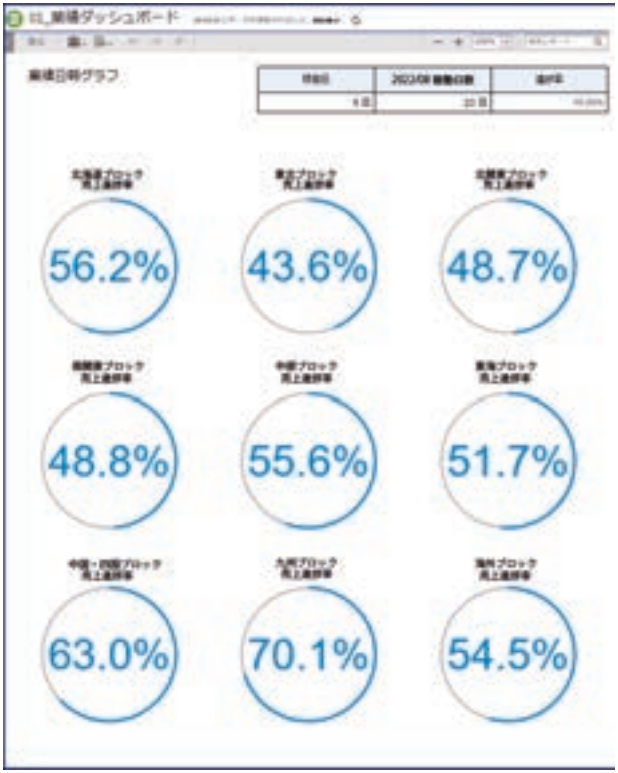
経営情報・財務情報・営業／マーケティング情報などの様々な情報資源を、正確かつスピーディーな意思決定や業務判断が行える環境作りを進めています。

まずは、前途の基幹システムの導入により、ほぼ全社に渡るデータのデジタル化が実現しましたので、その活用として「必要な人が、必要な時に、必要な情報」を自由に閲覧・分析できるシステムを導入し、運用を開始しています。

これまでは、基幹システムのデータ活用は主に各拠点、各部門の担当者がデータ集計を実施していました。例えば、過去の売上や利益のデータから事業のトレンドを把握しようとする際、スタッフがシステムから抽出したデータを集め、手作業で集計し作業に１週間以上かかってしまうケースもみられました。

今回導入したしくみは、基幹システムと完全に連動するため、自動でデータ入力が行われ、必要なデータを思う通りのフォーマットで出力することができますので、担当者は「表」を作ることではなく「分析」と「分析結果からの施策の提案」に注力できます。

今後は、売上高向上、利益拡大、原価低減、事業性の分析などに寄与する経営に近い仕組みに進化させていきます。



業績ダッシュボード事例

これらによって経営判断のスピード感が高まり、「創業100周年のありたい企業像」の実現に貢献を図ります。

今後もDXに向けた取り組みを加速させ、社内のデジタル化の浸透を推進するとともに、経営スピードアップと事業の変革を推進します。

会社の概況 (2022年9月30日現在)

社　名	株式会社バルカー (英文表記 VALQUA, LTD.)
創　業	1927年1月21日
設　立	1932年4月8日
資本金	13,957百万円
発行済株式総数	18,688,733株
株主総数	34,192名
従業員数	410名（連結 1,631名）

役　員 (2022年10月1日現在)

取締役

代表取締役会長 CEO	瀧澤　利一
代表取締役社長 COO	本坊　吉博
取締役 専務執行役員 CTO 兼 CQO	青木　睦郎
取締役 専務執行役員 CDO	中澤　剛太
取締役（社外）	関　忠行
取締役（社外）	関根　近子
取締役（社外）	齊藤 三希子

監査役

常勤監査役	髙　昭夫
監査役（社外）	八戸　孝彦
監査役（社外）	高橋　秀法

執行役員

専務執行役員	小林　健一
専務執行役員	櫻井　慎也
常務執行役員	森田　信利
常務執行役員	椿山　善昭
常務執行役員	瀧澤　利治
常務執行役員	小川　禎
常務執行役員 CCO	谷田部 麻美子
常務執行役員	植木　聡
常務執行役員	神田　大輔
執行役員	立田　寛
執行役員	野邊　淳嗣
執行役員	伏屋　克俊
執行役員	今井　将廣
執行役員	後藤　智子
執行役員	門脇　貞幸

CEO：最高経営責任者
COO：最高執行責任者
CTO：最高技術責任者
CQO：最高品質責任者
CDO：最高デジタル責任者
CCO：最高コンプライアンス責任者

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人 及び特別口座 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031
(ホームページ)	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/
公告方法	電子公告 https://www.valqua.co.jp/ir/koukoku.html ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所　プライム市場

株式会社バルカー
〒141-6024
東京都品川区大崎二丁目1番1号　ThinkPark Tower24階
TEL：03-5434-7370　FAX：03-5436-0560
URL：https://www.valqua.co.jp/

UD FONT
VEGETABLE OIL INK
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

※ この報告書は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。